

中国湖南省における農村の変容

— “改革・開放政策10年の歩み”の調査から —

足立原 貫

(短期大学部 農業技術学科)

「調査」にいたる経緯

1978年(昭和53年)に『日中平和友好条約』が調印された。「文化大革命」を終息させ、「四人組」後の混乱を收拾した中国は、「現代化」を掲げて「対内改革・対外開放」一連の政策方針を固め、その実施の一環として“対日新時代”の門戸を開いた。

「現代化」の支柱は、農村・農業であるとされたが、その「農業現代化」の推進に中国科学院がのり出した。中国科学院は、広く科学技術一般の研究行政を担当する中国の国政機関であるが、主として“自然科学系”それも、物理・化学・生物各分野の基礎部門と、それに極めて近い応用部門を対象としてきて、本来、農村・農業に関する諸問題は対象外であった。その中国科学院が、1978年の平和友好条約調印と前後して、院内に「支農弁公室」を置き、中国農業部*とは別途に、農業生産力向上を内容とする諸研究事業に着手した。

*…日本の農林水産省に相当する国政機関

黒龍江、河北、湖南の三省に、直轄の「農業現代化研究所」を設置し、それぞれの省における主要農産物の栽培試験研究に踏み切った中国科学院は、その試験研究の発足に当って、欧米と日本の研究者に協力を求めた。文革の後遺症で、中国国内の研究者の消息がつかめず、研究体制を整え難いという事情もあったのであろう。

日本に求められたのは、湖南省において実施する水稻多収獲栽培試験への協力であった。その試験研究への協力は中国科学院から直接、田村三郎*・東京大学名誉教授に要請された。

*…中国科学院顧問; 当時、富山県立技術短期大学長

要請を受けた翌年(1979年)の4月末、試験研究の拠点地となる湖南省桃源県の現地調査が

行なわれ、筆者は春原亘、東京大学助教授(現在・教授)とともにその現地調査に随行し、以後5ヵ年にわたって遂行された「日中合作水稻栽培試験」にかかわることとなった。水稻多収獲のための“合作試験”は、高い評価を受ける成果を上げて1984年に完了したが、その過程で、筆者は湖南省内の各界各層と密度の濃い交流を持つことになり、1985年以降も、さまざまな形と内容の協力事業を続けて今日に至っている。

以後、“湖南省通い”は回を重ね、指を折れば10指を超える。10余年を振り返ってみると、この歳月は、平和友好条約調印後の、日中交流の歩みの10余年であり、そしてまた、中国の現代化路線・改革開放政策推進の10余年でもある。

その間に見聞してきた中国社会の変容ぶり、人々の生活の激変ぶりはすさまじい。その“目撃者”として黙過し難いものを感じた筆者は、とくに多くの村々や人々に接してきた湖南省の農村の変容の推移をとりまとめるための調査研究を、中国側の研究者と共同で行なうことを意図し、平成元年度から、文部省科学研究費(国際学術研究)補助金を受け、現地調査を続けている。

本稿は、その調査研究の予備調査となった一部分の概要である。

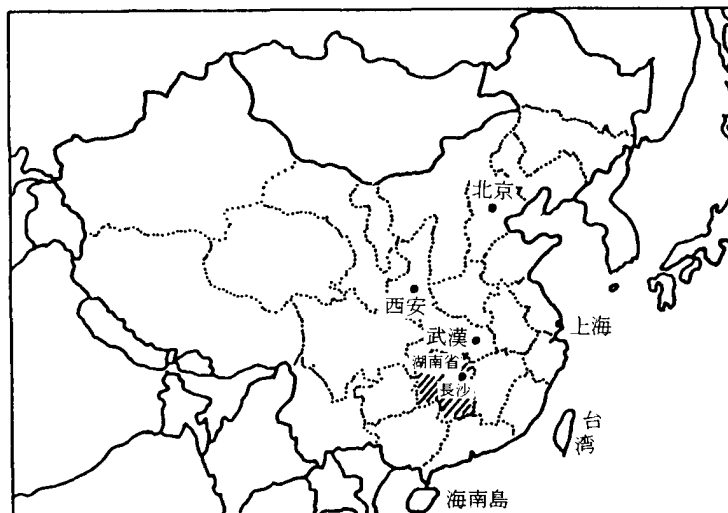


図-1 中国地図(斜線部が湖南省)

湖南省の概況

1) 揚子江中流南部に位置し、面積約21万km²。北部に洞庭湖があり、それゆえに“湖南”と称するが、沃野千里の平地は海拔ほぼ50m以下。中部は連綿と丘陵がつづき盆地と谷地が多い。全省に河川網が密で、湘江、資水、沅江、澧水の、四大河川をはじめ、全て洞庭湖へ注ぐ。東・西・南、三方面は山に囲まれ高峯起伏も大きい。最高の雪峰山の主峯は海拔1,900m。

気候は亜熱帯季節風湿潤型。四季の変化に富み、冬寒期は短く、無霜期は長い。年平均気温16°C~18°C、年間降水量1,200~1,700mm。

2) 中国全国有数の農業地帯であるとともに、豊富な天然資源に恵まれ、“魚米之郷”“有色金属*之郷”と呼ばれている。米と苧麻の生産量は全国1位、茶は全国2位、他に黄麻、茶油、菜種油、みかん、タバコ、生糸の生産が盛んである。 *…非鉄金属

非鉄金属および金属鉱産物は、これまでに111種の埋蔵が確認されており、内83種は埋蔵量が明らかにされている。現時点で、アンチモン、タングステン¹の産出量は世界1位。ビスマス、蛍石は中国全国1位。鉛、亜鉛、水銀、カオリンは全国2位。大理石、その他の鉱石類も、全国有数の産出・埋蔵量を示している。

3) 1987年の統計で、人口5,699万人。その内、大多数は漢族で、外縁地帯に、苗、土家、侗、瑤、回、維吾爾、壮、白、などの少数民族210万人が居住している。全省は6つの「地区」、1つの「自治州」、6つの「省直轄市」、16の「県級の市」、82の「県」、それぞれの行政単位に分れている。省都は長沙市。

1979年4月24日~5月3日の訪中で、筆者が初めて湖南省入りしたとき、接触した公的機関は、省、地区、市*、県、いずれの段階でも全て「革命委員会」であった。

*…行政単位として大きな市（省直轄市）は、県より上位にあり、県はその市の区画内に入る。たとえば湖南省長沙市長沙県、あるいは、湖南省常德市桃源県など。

4) 当時すでに北京中央で動き始めていた制度・機構の改革が、少しずつ地方にも波及し、その結果大きな変化がおこりそうなきざしは、そここに感得された。たとえば、「おそくとも再来年までに、全省の県革命委員会は県人民政府となり、県革命委員会主任は県人民政府県長になりますよ」「人民公社も生産隊もなくなるのです」「革命委員会主任は、任命されてきましたが、人民政府県長は、選挙ですよ」などという大きな声のかけで、「選挙となれば、きついまの主

任は県長になれませんよ」「人民の間の物の自由な取引きは悪でなく、悪は、表向き自由な取引きを抑えておいて蔭で甘い汁を吸う奴がいることですよ」などという小さな声が聞こえた。その小さな声は、予想をはるかに上回る急速さで表面化し、現実となった。

5) 制度や機構の改革は常に中央からやってくるが、改革を先読み・先取りする大衆の生活の確かな変化は、着実に地方から始まっていく。

湖南省各地の農村は、1983年の生産責任制と郷鎮企業振興の政策実施によって“さま変わり”が加速され、1985年までの2年間に、1979年当時とは全く様相を変えてしまった。

かつて農家の土壁や人民公社のレンガ塀、作業舎の屋根や道路傍の岩石など、いたるところに大書されていた「農業学大寨」「工業学大慶」式のスローガンが消え、それらの文字が塗りつぶされたあとに、電化製品や家庭薬などの広告が、色とりどりに描かれた。道端の露天に並ぶ自由市場で売られる品物も、農産物から手工芸品、衣類、電化製品にいたるまで種類も数も著しく増加し、全般に、服装の色彩が明るくなり、スカートにハイヒール、ヘアーセットしてアクセサリを着けた若い女性の姿もふえてきた。農家の新築や増改築も目につき、往来する自転車が激増した。

調査の課題と方法

上述のような実体験でとらえてきた湖南省農村社会の可視的变化を、数値のあとづけによって10余年にわたる観察記録としてとりまとめ、地域社会をめぐる諸政策立案への有効な資料として提供するため、関連課題の調査研究を計画していた中国側の研究者との共同調査を実施する。

調査およびそのとりまとめ手順は下記のとおりである。

- ① 10余年間に蓄積してきた記録・資料（写真、数値、折々に得た証言、コメント、感想、会議録、書信、等）から問題点を整理。
- ② 地域の社会経済の激変が住民生活にどのような影響を与え、そのことが住民にどう受けとめられたかを確認するため、農村住民への面接聴取。
- ③ 上記住民の居住地域における生産責任制と郷鎮企業に関する資料の収集と実地調査。
- ④ 改革・開放政策を実施してきた省、市、県、各級の行政担当者たちへの面接聴取。
- ⑤ 上記①②③④によって得られたそれぞれの結果の間のギャップを抽出。

- ⑥ 調査研究の総括として、都市化の進展に伴う農村の変容に対する一つの評価の視点を提示。

調査の結果

前項にあげた①～⑥のうち、④の予備調査として行なった行政各部門担当者との面談¹⁾の際に得られた結果を、以下の3節21項にとりまとめた。

1. 湖南省経済の動向

改革・開放政策の実施に携わってきた行政各階の当事者たちは口をそろえて言う。

「改革と開放の波は農村から都市に広がり、長い間存続してきた硬直的な経済体制を揺るがし、人々の思考を窒息させていた多くの旧観念に衝撃を与えた。その結果、広く大衆の生産意欲が高まり、生産力は向上した。この10年間は、中華人民共和国建国以来、全国的に経済発展が最も顕著であり、湖南省においても、安定した経済成長が継続し、大衆が最も大きな実益を得た時期であった」

その“実情”を、省統計局に収集されている資料によって、政策推進担当者たちは説明する。

表-1 省民経済主要指標の全国に占める順位

	1978年	1987年
工 農 業 総 生 産 額	1 1	1 1
工 業	1 3	1 2
農 業	7	7
食 糧 総 生 産 量	4	5
食 油 産 量	1 0	1 0
棉 花 産 量	1 0	1 2
茶 産 量	2	2
肉 豚 出 荷 数	2	2
発 電 量	1 4	1 5
原 炭 産 量	9	9
セ メ ン ト 産 量	8	9
化 学 肥 料 産 量	6	6
硫 酸 産 量	4	6
ア ル カ リ 産 量	9	8
織 布 産 量	1 4	1 2
農村住民1人当たり純収入	1 0	1 2

(1) 1987年以前の20余年間にわたる湖南省の経済の動向は、第1次5ヵ年計画時期(1953～1957年)が比較的安定して推移した以外、極めて不安定であった。とくに1966～1976年の10年動乱時期(いわゆる「文化大革命」時代)には、省民総生産額、省民所得、農工業総生産額は、4年間マイナス成長が続き、最も低か

った年は、マイナス41.9%を示した。その頃には予測が困難だったが、ここ10年間、湖南省経済は安定成長を続けている。

1979年から1987年までの9年間には、省民総生産額、省民所得、いずれも倍増した。1987年の省民総生産は469.44億元に達し、対1978年比2.1倍増、年平均成長率8.6%。同期省民所得は401.2億元で、2.02倍増。年平均成長率は8.1%であった。

中国全国における湖南省の経済レベルは、常に、中の上のレベルを保っている。1987年の省民総生産額と省民所得は、いずれも全国第11位であり、農業総生産額は第7位、工業総生産額は第12位である。

この10年間、湖南省の経済改革を推進した主役は農村であった。人民公社の解体後、各農家毎の生産高連動責任制(「生産責任制」と通称されている)へと全面的に移行し、個人の農家が、より多くの自主経営権を持つようになった。その結果、多くの農家の生産意欲が高まり、農村経済は活性化した。1987年における湖南省の農村社会総生産額は407.74億元に達し、対1978年比で2.21倍増、1978～1987年の年平均成長率は9.2%であった。これは、1987年前の26年間の平均成長率2.9%をはるかに上回るものである。

(2) 都市経済の改革は、企業活力の増強を主軸として展開された。農業における場合と同様に、工業の生産責任制(工場長責任制)を実施し、各企業の経営自主権の拡大によって工業生産力の向上をはかった。1987年における湖南省の工業総生産額は456.74億元であり、対1978年比で2.6倍増、1978～1987年の年平均成長率は11.2%であった。大衆生活で品不足がちであった軽工業製品や織物、工業生産力の向上で需要が増加しているエネルギーや原材料、農業用の諸資材などの生産が伸びた。

(3) 農工業生産の増大と流通ルートの拡大に伴って、運送業、通信業、商業の成長も著しく、旅客・貨物輸送量、通信業務量、商品販売額が大幅に増加した。各種運輸手段の整備が進んできた1987年の輸送量は、旅客296.78億人kmで対'78年比3.83倍増、貨物535.24億トンkmで対'78年比90.3%増。同期間内に郵便電話施設の整備が進んできた通信業務総量は1.27億元で対'78年比89.6%増、商品販売総額は242.88億元で対'78年比3.53倍増であった。

(4) 改革・開放政策を、省民の生活の実情に沿った計画性のある商品経済の導入によって推進していくためには、生活需用と産業構造の調整をはからねばならない。これまでの農業・軽工業・重工業の比率の改善である。大衆の日常生活の豊かさを実現する方策は、

第一に食糧の安定的確保、第二に日用品の潤沢な供給である。その方策の実施に伴ない、軽工業の占める比率が大きくなり、相対的に、重工業の比率が小さくなった。すなわち、1978年に36.5：24.8：38.7であった農業：軽工業：重工業の比率は1987年には35.7：29.6：34.7となった。

(5) 農村の経済改革は、産業構造の変化によって急速に進んだ。人民公社時代に水田耕作を主とする画一的な農作物耕作だけが存在していた各農村に、林業、牧畜業、漁業、さらに、建築業、運送業、工業、商業にいたるまで、さまざまな業種が存在するようになった。

そのため、当然のことながら、農村社会総生産額のうち、農作物耕作業が占める比率は相対的に低下し、林業、牧畜業、漁業の比率が上昇した。しかし、また、そのことが、農村住民の生産意欲の増大と、生活意識の活性化をうながし、農村住民各自の発想と実行力によるさまざまな他業種を発生させ、農村の生活水準を向上させたと言える。

表-2 省民経済の部門構成と主な比率関係

単位：%

年	1978	1980	1985	1987
一、工業総生産額の農業、軽工業、重工業構成				
農業	36.5	38.5	38.7	35.7
軽工業	24.8	26.5	27.2	29.6
重工業	38.7	35.0	34.1	34.7
二、農業総生産額の農、林、牧、副、漁業構成				
耕作業	75.1	72.0	58.5	54.6
林業	4.6	5.1	6.3	7.1
牧畜業	15.6	19.2	25.9	28.6
副業	3.7	2.6	5.8	5.5
漁業	1.0	1.1	3.5	4.2
三、省民所得支出の蓄積と消費構成				
蓄積	29.6	22.6	25.9	29.9
消費	70.4	77.4	74.1	70.1
四、固定資産投資の農、軽、重、投資構成				
農業	12.4	7.8	2.8	2.7
軽工業	8.4	12.1	13.5	17.7
重工業	53.1	42.9	40.9	45.8
五、文化教育、医療、衛生、科学事業費の財政支出に占める比重	17.7	28.2	31.3	26.6

2. 湖南農村経済の成長

湖南全省の農村社会総生産額は、1987年に407.74億元に達し、対'78年比2.21倍増であった。そのうち、農業総生産額の伸び率は54.4%であり、農業外業種は、農村工業生産額4.75倍、建築業11.36倍、運送業3.47倍、商業と飲食業6.69倍、それぞれ大幅の伸びを示した。

(1) 湖南農村経済を成長させる原動力となった農村改革は、各種形態の農家生産請負責任制によって推進された。請負制は、まず耕地を対象とする耕作請負から始まったが、しだいに、水面を対象とする漁業請負や、山林を対象とする林業請負など、請負制の項目が広がっていった。請負制によって、責任と権利が利益に結びつくため、農家の生産意欲は高まり、各部門の生産力を向上させた。その結果、農、林、牧、副、漁、

表-3 農村社会総生産額

(当年名義価格計算)

単位：億元

	1978年	1980年	1985年	1987年
一、農村社会総生産額	106.66	142.17	288.36	407.74
農業総生産額	81.91	111.14	198.44	253.39
農村工業生産額	17.03	20.99	49.01	93.39
農村建築業生産額	1.85	2.88	20.69	28.61
農村運送業生産額	3.91	4.43	7.60	13.66
農村商業、飲食業生産額	1.93	2.73	12.62	18.69
二、在農村社会総生産額構成				
第一次産業	81.91	111.14	198.44	253.39
第二次産業	18.88	23.87	69.70	122.00
第三次産業	5.87	7.16	20.22	32.35
三、在農業総生産額の部門構成				
農作物耕作業生産額	61.55	80.00	116.11	138.31
林業生産額	3.73	5.67	12.54	18.14
牧業生産額	12.76	21.30	51.40	72.40
副業生産額	3.04	2.90	11.41	13.96
漁業生産額	0.83	1.27	6.98	10.58

の五業が均衡して全面的に発展した。1987年の湖南省農業総生産額は253.39億元、対'78年比54.4%増、その内訳は、農作物耕作業34.2%、林業9.2%、牧畜業2.02倍、副業4.09倍、漁業3.8倍、それぞれ増であった。

(2) もともと湖南省は中国全国一の穀物産地であり、1983年に2,650万トンに達した生産量は以後毎年2,600万トン前後を保持している。これは、1978年に比して24.2%増であり、その他の主要農産物の生産量も、すべて大幅に伸びた。農産物の生産量増大は、湖南省の

都市と農村、いずれの住民生活の向上にも寄与したばかりでなく、軽工業と対外貿易に原料を提供してその発展を促進した。1987年の時点で、湖南省内の企業のうち、農産物を原料とする加工業が8,391件あり、これは対'78年比86%増、年生産額は152.13億円で3.2倍増となっている。

1987年における湖南省の農副産品の輸出総額は1.65億米ドルであり、全省輸出総額の26.7%を占めている。

表-4 主要農産品産量

	1978年 万t	1987年 万t	1987年の1978年 に対する増加	
			量(万t)	率(%)
食糧	2,087.90	2,593.70	505.80	24.2
その内稲穀	1,875.70	2,414.17	538.47	23.7
棉花	7.56	5.55	-2.01	-26.6
榨油作物	19.71	53.06	33.35	169.2
その内菜種	14.92	42.98	28.06	188.1
黄紅麻	2.10	1.18	-0.92	-43.8
苧麻	0.98	25.30	24.32	24.8倍
甘蔗	60.27	123.04	62.77	104.1
煙草	5.30	9.68	4.38	82.6
茶油	5.50	7.91	2.41	43.8
蚕繭	0.13	0.23	0.10	76.9
果物	5.77	54.07	48.30	837.1
その内柑橘	1.93	43.48	41.55	21.5倍
茶油	5.50	5.00	-0.50	-9.1
豚牛羊産量	69.02	163.85	94.83	137.4
肉豚出荷(万頭)	1,494.26	2,657.44	1,163.18	77.8
大家畜年底数(万頭)	322.16	380.21	58.05	18.0
水産品産量	11.87	44.38	32.51	273.9

(3) 農村経済政策が緩和されるにつれて、農村工業、建築業、運送業、商品流通業、が急速に増加し、その事業量を伸ばしている。1987年の湖南省農村における第2次および第3次産業従事者は420.68万人で、対'78年比3.6倍増。その生産額は154.35億元に達し、実質価格で対'78年比5.2倍増であった。農村社会総生産額に占める第2次および第3次産業の比率は、1978年の23.2%が1987年には37.9%に上昇している。

このような農村経済の動向の中で注目されるのは、一部の地域において急速に伸びている「村営」級の企業である。醴陵市を例にとると、1987年の全市内における村経営と村以下組織経営の企業は2372件に達し、年生産額2.5億元、全市農村社会総生産額の23.3%を占め、上納利潤と税金は420万元であった。

(4) 長い間、湖南省経済は伝統的な農業を支柱としてきたが、その農業生産は農作物耕作が主であり、農

作物耕作は穀物生産が主である、という単一的な構造であった。改革・開放政策の実施によって各農家の経営自主権が拡大するのに伴い、農業全野にわたって経営項目が拡大し、重層的な構造となってきた。その結果、農業総生産額に占める比率は、1987年に農作物耕作75.1%と林・牧・副・漁24.9%であったが、1987年には農作物耕作54.6%で、林・牧・副・漁45.4%となっている。

農作物耕作業の内でも構造変化がおこっている。全作物生産額に対する穀物生産額の比率は、1978年の時点で76.7%であったが1987年には59.8%となり、工芸作物およびその他作物の生産額は、1978年の23.3%から1987年には40.2%へと上昇した。

(5) 農村産業構造の改革過程で、重視されるべき極めて良好な現象が生じた。

多くの農家の意識が変わり、自主的に各地域の自然条件・地理的特性・自然資源の活用をはかって、適地適業、さまざまな形と内容の專業経営集団を形成し、成長させた。それは、多くの場合、その地域の核となり得る1戸の專業農家から始まり、それが村民小組→全村→全郷の集團経営体と輪を広げていくが、最初から複数または少数の農家が協同し、それが全村→全郷の集團経営体となってきた例もある。始まりがどのようなものであれ、良好な経営体は、それぞれの段階で、村民同士、小組同士、村同士、郷同士、としいに規模の大きな連合経営体に発展している。これらはいずれも、各農家の自主的活動によって発生し、成長し、維持されているところが、かつての人民公社時代との大きな相違である。そのため、各経営体とも経営業績が実質的に地域住民の生活向上に役立つような事業を展開している。

岳陽渭洞区の例で見ると、全区3郷・16村・10750戸が、竹木資源の豊富な20万亩*の山林経営に当たっている。彼らは、ここ数年間に、市場を目標として竹木資源の開発に努め、区・郷・村・組・農家の各段階別連合の5級の企業を創立し、各級企業レベルごとに導入できる施設・技術によって竹の加工生産を行なっている。1987年の時点で、全区内に竹木資源開発加工企業は5220件あり、従業員11,000余人で生産額1,200万元をあげている。従業員数は全区労働力総数の61.8%であり、この事業経営が、地域に多くの雇用機会を生み出していることを示している。

*…1亩(ム一)≒6.67アール

注目すべき別の例として、臨澧県太平村がある。この場合は、極めて優秀な経営者の存在を抜いては、その成功を理解し得ない。当村出身の吳志泉は、人民解

放軍の将校であったが、除隊して帰村すると、自主自立性のある20余戸の農家を結集し、抜群のリーダー・シップを発揮して1984年に共同出資をまとめ、脱水野菜（乾燥野菜）工場の操業を開始した。その経営を短時日で軌道にのせると、次々に事業を拡大し、1987年には全村住民参加による冷凍工場・畜肉加工場・缶詰工場・配合飼料工場など、10指を超える企業の連合経営体「臨澧太平農工商実業開発公司」を設立した。

この会社の経営は、全村の各農家が生産する穀物、野菜、豚、鶏、などの農産物を買上げて原料にし、農作物耕作—家畜飼養—農産物加工を系列化するという基本線を守っている。そのため、農業を基盤に工業を開発し、工業経営の業績によって農業経営を支援し、全村あげて生活水準の向上をはかり、その蓄積は次の事業の興隆とともに住民福祉に向けるという理想的構図を現実化している。

省統計局が把握している養豚部門だけの1987年の実績は全村で100余棟の養豚舎を修築して肉豚出荷8,300頭、1988年には2万頭と見込まれている。

3. 農村住民生活の向上

(1) 湖南省内の農家3700戸の標本抽出調査によると、1987年における農村住民1人当り純収入は471.30元である。これは、1978年の142.56元に比し3.31倍増、その間の年平均伸び率が14.2%（物価上昇要因分を差し引いた伸び率は11.1%）となり、その前21年間（1957～1978）の年平均伸び率2.6%を大幅に上回っている。

1957年から1978年まで21年間の農村住民1人当り純収入は100元前後で、毎年平均2.93元程度増加していたが、ここ9年間は、毎年平均36.53元と著しい増加を続けてきた。

農村改革が進展し、農副産物価格の規制が緩和されるにつれて、各農家の商品生産の意欲が向上し、農副産物の交換が活発になるとともに、商品化率が高まった。その結果、都市および農村において、いずれも、自由市場が盛んになり、農村住民の現金収入は増加した。1987年に農村住民が農副産物を直接販売して得た1人当り現金収入は、295.42元に達し、1978年における34.65元に比して、8.53倍増となった。

(2) 農村産業構造の調整によって、農業、林業、牧畜業、副業、漁業、および、農村住民たちの手による建築業、運送業、商業、サービス業は、いずれも活気をもって行なわれるようになり、農村住民の現金収入源の拡大をもたらすとともに、その所得構造を大きく変化させた。農村住民の純収入の内訳を見ると、第一次産業に由来する分は、1978年に1人当り131.79元が

1987年に1人当り337.19元と増加したが、その純収入に対する比率は、92.4%から71.5%に減少した。一方、第二次および第三次産業に由来する分は、1978年の2.19元から1987年の105.81元に増加し、その全純収入に対する比率は1.5%から22.5%へと、大きく上昇している。

(3) 10年前には、日常生活の衣食にも困窮する極貧農家が目立ったが、1987年現在、湖南省内の農村において、生活困窮農家は、特殊な事情のある極めて例外的な存在となった。湖南省統計局によって集計されている農村住民の所得状況は、下記の通りである。

表-5 湖南省農村住民の所得階層分布

一人当り 純収入 年	100元 以下	100 ～ 200	200 ～ 300	300 ～ 500	500 ～ 800	800 ～ 1000	1000 ～ 1500	1500 ～ 2000	2000 以上
1987	0.03%	1.79	13.11	47.47	31.00	4.38	1.76	0.32	0.14
1978	14.40%	70.90	13.30	1.40	-	-	-	-	-

表に示されているように、1978年当時は200元以下の所得層が85%以上も占めており、現時点で見れば、農村住民総貧困の状態にあったことがうかがえる。

(4) 所得の増加に伴って、生活水準も目立って向上している。その変化は、消費構造に見ることが出来る。農村住民1人当りの生活費は、1978年に140.07元であったが、1987年には434.75元となり3.1倍増、その間の年平均伸び率は13.4%である。その支出項目別の変化を下表に示す。

表-6 湖南省農村住民1人当り消費支出の変化
(単位：元)

項目 年	食 品			衣 服	住 宅	その 他の 日用品	燃 料	文化 生活 サービス	合 計
	主 食	副 食	計						
1987	81.10	125.52	245.68	35.16	61.87	54.00	17.46	20.58	434.75
1978	53.75	37.00	97.93	14.29	4.43	5.98	13.72	3.81	140.07
増加額	27.35	88.52	147.75	20.87	57.44	48.11	3.74	16.77	294.68
1987年の 対'78年比 増加率	50.9%	239.2%	150.9%	146.1%	13.97 倍	9.17 倍	27.3%	5.4 倍	210.4%

(注) 住宅支出には、電気料と家賃を含む。
文化生活サービスの内容は図書・新聞・映画等の費用

(5) エンゲル係数で見ると、1978年は68.99%で貧困水準であったが、1987年には56.5%で、平均的に満足できる水準になっている。それとともに、商品性生活消費物への支出が増加し、農村住民自身の手による自給性生活消費物の占める比率が低下した。

1987年における農村住民の、商品性生活消費物への総支出が、全生活消費物への支出に対して占める比率は63.3%で、対'78年比32.2%増であった。項目別の変化は下表のとおりである。

表-7 湖南省農村住民の全生活消費物への支出に対して商品性生活消費物への支出が占める比率(%)

項目年	食品	衣服	その他日用品	住宅	燃料	総支出
1987	44.4	99.7	99.5	94.4	37.4	63.3
1978	19.0	98.7	93.7	35.9	18.7	31.1

毎日の生活必需品である食品と燃料の商品化率の増大が、自由市場の活性化を裏づけている。

(6) 食生活の内容の変化が目立つ。主食物である穀物類の消費は、1980年に1人当り334.7kgであったが、1987年には317.1kgと減少し、その一方、肉類、卵類、魚類等、副食物の消費が全般的に増加した。

その他、タバコ、菓子類、果物、清涼飲料水等の消費も倍増した。

表-8 湖南省農村住民の主要副食物消費量(単位: kg)

項目年	肉類	家禽	卵類	魚蝦類	砂糖	酒類	動植物油
1987	18.54	1.99	2.17	2.67	1.68	6.61	6.55
1978	8.45	0.80	0.90	1.30	0.80	1.80	3.80
増加量	10.09	1.19	1.27	1.37	0.88	4.81	2.75
増加率	119.4%	148.8%	141.1%	105.4%	110.0%	267.2%	72.4%

(注) 肉類は豚、牛、羊等
 家禽は鶏、家鴨、鵝鳥等
 卵類は鶏卵、家鴨卵、小鳥卵等

食生活の変化に伴ない、栄養摂取量も増加している。1978年当時、2324.82 kcalであった農村住民の食物摂取カロリーは1987年には2737.78 kcal となって17.8%の増加を示している。蛋白質の摂取量は、1978年に56.22gであったが、1987年には61.39gと、9.2%増加している。脂肪の摂取量は、1978年に25.52gであったが、1987年には55.29gと、倍以上増加している。

総じてみれば、栄養の摂取量は、まだ充分とは言えないが、改革・開放政策実施前に比べれば数等よくなったことは事実であり、農村住民の健康維持に好影響し、生産意欲の向上と農村生活の活性化につながり、改革開放政策推進の原動力となったと言える。

(7) 改革・開放政策の発足以来、農村には空前の住宅新築ブームがおこった。1979年～1987年に湖南省農村で、全農家の91.6%が住宅を新築あるいは増改築しており、農家1戸当りの住宅建築投資累計額は1278.28元、建築面積は77.04㎡となり、現有住宅面積の69.9%を占めている。

多くの農家の住居事情は大きく改善され、1987年末

における農家1戸当りの部屋数は5.88室で、対'78年比89.7%増、農村住民1人当りの使用面積は23.83㎡で、対'78年比2.27倍増となっている。各農家とも、住宅の新築や増改築に当っては、単に広さだけを求めるのではなく、外観、様式、構造、材料、などをも重視するようになってきた。1987年現在では、新築住宅のうち、煉瓦と木材によるものが33.3%、鉄筋コンクリート建が8.1%。二階以上建てのものは22.5%を占めている。

合理的な設計により、美観を重視し、庭園を有する二階以上建ての新しいタイプの農村住宅が、農村各地に続々と出現しつつある。

(8) 湖南省の農家の生活水準の向上は、服装の変化にも顕著に現れている。食生活にゆとりが出てくるとともに、省内いずこの農村でも、若者たちが競って身なりに注意するようになり、農村の貧困を象徴するような服装はしだいに消えた。着用できる衣服があればよいとされていた時代とは一変し、農村住民たちも、衣服に着ごちのよさ(快適性)や都市型的美観を求めるようになり、さまざまな色調、さまざまな形の衣服が現れている。素材も、ほとんど綿布だけだった1970年代までとは異なり、毛織物や化学繊維など多様になった。

農村住民たちの衣服の着用のしかたは、かつての「一着服装多季節使用」から「一季節多着服装使用」に変わった。1987年における農村住民1人当たりの服装費支出額は35.16元、対'78年比2.46倍増である。その内容を素材別で見ると、1987年現在、湖南省農村住民1人当たりの綿布の消費量は1.32mで、対'78年比67.2%減。これに対して化学繊維、紡毛生地、毛糸および毛織物の消費量は、対'78年比、それぞれ9.2倍増、62.5倍増となっている。このことを製品で見ると、羽绒服、カシミヤセーター、ラシャのオーバーコート、スプリングコート、背広のスーツ、等々、都市で流行している衣類が、農村でも流行するようになった。

男女ともに、流行の既製服を買う者が増加し、それに伴ない、衣服に合わせた革靴、スポーツ・シューズ、靴下、ネクタイ、スカーフ、フード、装飾眼鏡、等の消費量が急速に増加している。

(9) 耐久消費財の増加も著しい。中国全国各地の農村における場合と同様に、湖南省の農村においても、農家所有の都市型高級耐久消費財はゼロから出発し、年々増加してきたのであるが、その増加のテンポは、他省における場合より、かなり急速であったと見られる。

表-9 湖南省農家100戸当り耐久消費財所有量

年	品目	自動車	ミシン	腕時計	ラジオ	扇風機	テーブ・レコーダ	白黒テレビ
1987		67.43	29.87	150.57	30.00	20.68	5.19	14.97
1978		-	6.67	4.91	3.16	-	-	-

これらに加えて、この2～3年間に婚礼の高級化とともに急速に増加しているのが、ソファ、洋服ダンス、欧風テーブル、デスク等の大型家具で、1987年現在、農家100戸当り466.27件ある。カラーテレビ、カメラ、洗濯機、冷蔵庫、オートバイの流入も目立ってきたが、現時点ではまだ正確に数はつかめていない。

(10) 衣食住の生活面での改善が進むとともに、多くの農家は、精神文化面に関心を寄せるようになった。ここ数年間、湖南省農村各地に、文化会館、図書館、映画館、体育館、等の施設が建てられ、農村住民の余暇文化生活の内容を豊かにしつつある。

1987年現在における湖南省農村住民1人当りの娯楽費支出は10.31元、図書・雑誌・新聞等の購入費支出は3.36元、それぞれ3年前の1984年当時よりも6.1倍、2.05倍、増加している。

(11) 農家生活の向上は、貯蓄に現れてきている。湖南省農村住民1人当り年末の手持ち現金が、1978年末は2.29元であった。それが、1987年末には、85.79元となっている。1978年末に農家の貯蓄調査をした際、預金残高を持っている農家はなかったが、1987年末には、調査対象農家の農村住民1人当り預金残高は45.40元であった。それとともに、各農家が備蓄できる穀類(ほとんど米)の余剰分は、1987年末に326.34kgあり、これは改革・開放政策が開始されて間もない1980年当時の142.5kgに比して2.29倍増である。

あとがき

中国では、文革の終熄後の現代化路線で改革・開放政策が定着した1980年代初頭から、都市への人口集中防止をねらいとして、生産責任制の実施と郷鎮企業の振興により、農村における労働力の有効化と生活水準の向上がはかられている。その過程で、農村経済は急速に商品経済化の傾向をたどり、農村住民生活は都市化の激流に巻きこまれてきている。このような施策の

推進が、農村地域社会にもたらした「正・負」の影響を分析し・評価することは、社会経済体制変容の現象研究にとどまらず、広く一般問題として、地域を対象とする政策の立案と施行のあり方について考究するための有効な素材になると期待し得る。

この見地から、筆者は1979年以来、農林技術協力で中国へ頻繁に出向いている間にみつめてきた湖南農村の変容ぶりを、数値面からあとづけて、問題点のありかをさぐる資料を得ようと意図した。本稿は湖南省行政担当者への面接聴取および、湖南省統計局が収拾している資料によって得た結果の一部をとりまとめたものである。調査は、文部省科学研究費(国際学術研究)補助金による調査研究『中国湖南・湖北における商品経済の浸透と農村の変容』²⁾の一端として実施したものである。従って、本稿にとりまとめた結果の考察は、その本調査研究の他の部分「住民意識」「生産責任制」「郷鎮企業」「改革・開放行政の構想と現実」各分担者の調査結果との関連で総合的になされるべきものである。そのため本稿は、予備調査で得た結果のみにとどめた。ここに記述した結果についての考察、およびそれにもとづく政策評価の視点の提示は、上記本調査³⁾研究終了後にまとめて公刊する報告書にゆだねる。

(注)

- 1) 1989年10月19日～20日および1990年3月12日、湖南省対外科学技術交流中心の協力により、長沙市において行なった。
- 2) 研究代表者：足立原貫／共同研究者：春原亘(東京大学)、清成忠男(法政大学)、李龍雲(中国社会科学院)
 - ・現地調査のための渡航：
 - 1989年10月8日～23日(足立原、春原)、
 - 1990年3月3日～17日(足立原、清成)、
 - 1990年10月10日～24日(春原)、
 - 1990年10月26日～11月9日(足立原)、
 - 1991年3月2日～15日(足立原、清成)。
- 3) 行政当事者たちへの面接聴取本調査は、省郷鎮企業局、省計画委員会、省科学技術委員会星火計画弁公室、省農村経済委員会の各部門実務担当者に対し、1991年3月5日～6日、省対外科学技術交流中心の協力により、長沙市において行なった。